時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり　時事新報には毎號詳細なる商況物價の報告あり　時事新報社電話番號　百

時事新報

明治廿七年十一月三十日金曜日
舊曆甲午十一月四日　（丙、子）
日出午前六時三十三分
日入午後四時二十七分
月出午前九時三十四分
月入午後六時五十一分
滿潮午前六時五十分　午後七時十分
（西曆一千八百九十四年）
年始より　三百三十四日
年末まで　三十一日

時事新報定價

時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價は左の如し

時事新報定價（府外遞送には此他後に揭ぐる遞送料を要す）

一號　貳錢五厘　○一箇月　前金五拾錢　○三箇月　前金壹圓四拾五錢　○六箇月　前金貳圓八拾五錢　○一箇年　前金五圓六拾錢　○月曜日休刊（此他大祭祝日年始年末等一切休刊せズ）

●前金　一旦受取りたる前金は凡て通貨を以て返戻する事なく新聞紙代の前金は新聞紙を以て又廣告料の前金は廣告を以て勘定する事と御承知被下度候

時事新報遞送料

一　日本國內並に朝鮮國京城、仁川、釜山、元山津　一箇月　金拾三錢

二　南亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加奈陀を經て郵送する歐洲各國　一箇月　金六拾錢

三　北米合衆國、英領加奈陀、布哇諸嶋　一箇月　金三拾錢

四　香港を經て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸嶋、濠洲　一箇月　金六拾五錢

五　露領浦鹽斯德、淸國諸港　一箇月　金三拾五錢

時事新報廣告料（前金）

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十三錢	十一錢	十錢五厘

●●●●●廣告料定價　時事新報の廣告料は都て定價の通り申受くる筈なれども取次人の內には往々定價以下にて引受くる者ある由今後斯る事實を發見する時は直ちに其取次人に對し本社廣告の取次を謝絶する事もあるべき筈に付豫め廣告依賴者諸君に公告す

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を揭ぐるもの尠からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依賴せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる塲合も尠からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報社に達したる投書の原稿は凡て寄稿者に返戻せず又本社に保存せず

時事新報

醫術の革新

凡そ人間社會の進歩は一方に偏せざるの約束にして政事軍事學事商事等立國の要素はれの／＼必らず平衡を保ち相竝んで戾らざるを常とせり左れば政事のみ獨り進んで學事商事の之に伴はずと云ふを聞かず一花綻びて天下の春を知る一事既に進歩の證跡を明にすれば必ず隨て百科の併進を徵するに足る可し軍や先、商や先、學や先だつも僅に歩武の間にして大勢一たび動くときは孰れか自然の原則に漏れんや輓近我國の進歩は世界の耳目を驚かす中にも軍事の如きは精練强勇向ふ所に前なくして人も許し吾も自から誇る所なれども今之れを我國進歩の大勢より達觀すれば必ずしも特に出色と云ふ可きにあらず例へば學術社會に於ける北里博士の如き久しく海外にありて黴菌學の精微を究め歸朝後たまゝゝ香港に惡疫の流行を機とし親しく危地に入りて遂に從來世界萬國にも知られざる黑死病の源因を發見したる等その成績の偉大なるは猶は我陸海軍の進歩に比す可きものにして双方時日を同ふしたるは最も現著なる事例として見る可し之と等しく政事も進み商事も進み各般の事すべて同樣の進歩をなしつゝあるは我輩の敢て疑を容れざる所なり然るに此學界に光を放ちたる北里博士は頃日又もや實布垤里亞病に新治法を施して着々斯道の蘊奧を啓かんとせり左に其報告書を揭げて讀者と共に日本帝國の文明は決して社會自然の約束に違はずして花あり實あるを祝せんとするものなり

實布垤里亞の傳染病なるとは古來人の知る處なれども其特殊病原を發見したるはリヨフレル其人の功にして實に一千八百八十四年に在り北里博士在獨の日學友ベーリングと共に本病の免疫法を研究し動物試驗に於ては充分の効果を收めたり其試驗方法及成績は當時の內外專門雜誌によりて一般醫學社會に紹介せられたれば其道の人は定めて記臆するみとならん斯の如く動物試驗に於ては充分の成績を得たれども未だ汎く人體に應用するに至らずして博士は歸朝の途につきベーリングは他の學友と共に引續き研究に從事し遂に今年に至りて其成績を公にしたりベーリング等の治療したる實布垤里亞患者は合計二百二十人にして治療はエリザベット病院市立フリードリヒスハイン病院ラッアルス病院市立モアビット病院傳染病研究所病室の四箇所に於てし又病症の輕重難易を問はず入院患者一般に施行したりと云ふ今其治死の比例を聞くに左の如し

患者合計	全治	死亡	患者每百に付全治比例
二二〇	一六八	五二	七六、四

右の內氣管切開術を行ひたる者

合計	全治	死亡	患者每百に付全治比例
六七	三七	三〇	五五、一

右の表に依りて見るときは從來不治の難症と思惟し施治醫は手を束ねて空しく天命を俟たる實布垤里亞症の四分の三以上は此新療法によりて救助するを得べく又特に重症にして氣管切開術を施したる程の患者も半數以上は命緖を繋留するを得るを知るべし更に左の表を觀察するときは新療法の恩澤鴻大無邊なるを合點すべし

發病以來の日數	患者	全治	死亡	患者每百に付全治比例
第一日	六	六	○	一〇〇、〇
第二日	六六（九）	六四（七）	二（二）	九七、〇
第三日	二九（八）	二五（七）	四（一）	八六、〇
第四日	三九（一四）	三〇（一〇）	九（四）	七七、〇
第五日	二三（一〇）	一三（四）	一〇（六）	五六、五

括弧中の數は氣管切開術を施したる者に係る

即ち第一日に治療を受けたる者は百發百中一人の死亡者なく第二日第三日に至れば漸く死亡の數を增し第五日に至りたる者は半數以上を救命するに過ぎず然れども新療法を施さゝる者に比すれば全治者の多き事論を俟たず

又死亡者の死因を揭れば左の如し

死亡合計五十二人中

咽腔實布垤里亞	二二	氣管切開術を施したる者	三〇
內　敗血症	八	同上	四
肺炎	七	同上	二三
後發病	六	同上	二
粟粒結核	一	同上	一
計	二二	計	三〇

由是觀之死亡は直接實布垤里亞の所爲にあらずして他病の繼發したるに歸因するみと知るべし尙入院後死亡迄の時日を觀察するときは死亡者の多數は入院の翌日にあるが故に其死亡は到底救ふべからざる者たりし事を會得すべし

入院當日死亡者	六
二日目死亡者	一二
三日目死亡者	八
計	二六

剰餘の二十六人は若し藥液の供給充分なりしならんには幾分か救ひ得たるならんと云ふ又他人の監督に係る病院に於て治療したるみとゆゑ何分か取扱上不如意なる點もありしならんと餘處ながら想像する處なり

先是北里博士は歸朝早々研究事業を繼續し且つ人類にも應用せんとの計畫なりしが右藥液は動物體を假りて製するみと故他の藥品の如く實驗室內に於て製するを得ず從て完全なる動物室を要する者なるに一方に於ては研究所の建設延引したる等の事情により漸く本年初夏の候に至りて藥液を製し得たり然れども實驗を積みたる上ならでは人體に應用する能はざるが故に此頃漸く實地治療を施すに至りたりといふ

傳染液製造の法を聞くに山羊綿羊等は最も實布垤里亞に感じ易き者なるが故に最初實布垤里亞菌の純粹培養をなし藥品を以て黴菌を殺却し其極少量を綿羊又は山羊に注射し漸々日を重ぬるに從て其量を增し一定量に達したる後更に黴菌を殺さゞる純粹培養の極小量より初めて漸次其量を增加し斯くて半年內外を經過する時は羊は實布垤里亞に對して全く免疫となり劇烈なる毒性を有する純粹培養十立方センチメートルを注射するも毫末の異狀を認めざるに至るべし然る時は其動物の血液中にはアンチトキシン（對毒素即ち毒力を中和する物質）を含むが故に其血液より血淸を分離して之を動物又は人體に注射する時は其動物又は人體は實布垤里亞に對して免疫となるが故に確實に該病を豫防するを得べく又巳に本病に罹りたる者に注射するときは發病の初期に於ては必ず治癒の効を奏すべしと云ふ

斯て充分の準備整頓しければ傳染病研究所に於ては患者の投室を待ちしに本月中旬實布垤里亞患者の診を乞ふ者ありければ直ちに入院を命じて新療法を施し遂に回生の良効を收め得たり

今患者病歷の槪略を聞くに

和田某一年三箇月芝區の住なり本月十日の夜より發熱感冒の模樣あり十一日十二日に至り病勢益々募り聲音嘶嗄、哺乳困難、呼氣異臭等の症狀を呈しければ十三日午前北里博士の診を乞ひしに咽喉は全く義膜を以て被ひたり其一部を取り鏡撿せしに眞性實布垤里病菌を認めたり因て直に入院を命じ午後四時傳染病研究所病室に投ず直ちに血淸注射法を行ひしに入室時三十八度三分乃至八分の體溫なりしも午後十時に至りては三十七度五分に下降し翌朝八時に至りては更に三十六度七分に降り諸症大に輕快し哺乳も稍容易く發聲も少しく恢復するに至り三日目には義膜殆んど消失し全身違和なきもの如く八日目にして全治退室するを得たり注射の數六回にして血淸の全量八、五瓦なり該症の眞正實布垤里亞なりし事は顯微鏡撿査上該病菌を確認し加ふるに純粹培養動物試驗によりて確めたる者なるが故に從來の療法に一任したらんには其生死容易に測知すべからざる者ありしならんに斯く速に治に就きたるは偏に醫學進歩の賜と云ふべし

右患兒と相前後して某醫學士及研究所書記某も實布垤里亞疑似症に罹りて血淸療法を受け何れも全治したり右二人の臨床的症候は實布垤里亞に相違なきも黴菌學者の診斷上には聊か不完全なる點あるを以て茲には其治驗を省略すべし

唯り實布垤里亞のみにあらず破傷風の如き腸窒扶斯の如き丹毒の如き結核の如き其他黴菌學的治療法即ち免疫法は漸次好良なる效果を收めつゝあるに拘らず醫學社會中今尙は免疫法の成否を疑ふものあるは一見奇なるが如くなれ共皇漢醫術復活を唱ふる者さへある世の中なれば敢て驚くに足らず畢竟其人の無智無識を證するに過ぎず實證の前には巧辯なし世間の蛙鳴蟬噪日ならずして其聲を斂むるの期あるべしと云へり

雜報

○直隸灣の防備　天津及び北京に達する通路の要害即ち太沽砲臺の近傍は沼澤湖水多くして大軍を進むるに便ならず且つ近海の潮流淺きが故に軍兵の上陸に際し護衛すべき軍艦は大艦を用ふる能はざる不便あり而して海上に突出せる砲臺は都合七箇所あり其備附の巨砲は七八十門にして外に實用に適せざる舊式砲無慮百門を有す但し守兵の數は多からず然れども白河の南岸地方に配置せる小站營兵を移し守備を增すみとを得べし該營兵の總數は五千人乃至一萬人なりとす太沽より北に距る遠からざる處に在る北塘の砲臺は四箇所ありて二十門乃至三十門の巨砲を備ふ又北京と奉天府の間に横はる官道の海に瀕する要區山海關の砲臺は六箇所あり其備附の巨砲五十門を有す以上の諸砲臺は旅順口の砲臺に於けるが如く精鋭の砲具を備ふるみとなしと雖も之を海上より攻擊し略取するは容易ならざるべし要するに太沽、北塘、山海關及營口等は支那のため海上の第二防禦線に外ならざるなり（去月十五日露國ノウォエ　ウレーミヤ）

○奇怪なる書翰　本邦居留の英人にして較や名の聞へたる某は倫敦十月十日着にて左の如き書翰を送りたりとのみとなり某とは何人なるか又居留地何所より發したるか詳かならざれども當地の居留外國人は悉く日本の敗北を希望すと云ふが如きに至つては誤解の甚しきものと云ふべし

我々は戰況の實際を聞くみと甚だ少し左りながら當地の外人は皆日本の大に敗北せんみとを希望するが如し我々の使役する日本人は徵發されて十二時間內に參集の達しを受けたり諸物價は內外品の別なく大に騰貴し

殆んど前日の二倍を
正したるは一種の恥
外にて不怪の感に堪
する所なくして却つ
り勿論日本人は喜べ
るは排英の感情に過
承諾せしむるみとを
るなしと信ずるに至
すみとあれば或は英
は今の日軍北京を陷
しと揚言するものあ
人民に對して貰られ
官フリーマントル氏
云々

○中央政社とデ
は一昨日午後一時よ
協議を開きしに同氏
接首相に就き云ふ所
のなりと論ずるもれ
合ふべからずと云ふ
機に達せずとの理由
決議し在京上席大臣
を陳述するみとゝし

○帝國生命保險
社は去る十一月二十
九千八百圓に達した
下の各新聞記者を招
社は始め多人數を招
しも時節柄遠慮した

○幼稚舍の大幻
ては來る十二月一日
館に於て午後五時
百餘圖の大幻燈を
圖畫の興は～最

○ハンす